

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 16 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	33.0	107.2 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.3 m <sup>3</sup> /h	44.9	3.99 kPa g	A系： - vol%
		給水系：約 2.1 m <sup>3</sup> /h			B系： - vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 4.3 m <sup>3</sup> /h	45.8	0.21 kPa g	A系： 0.22 vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.20 vol%

\*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【2号機】・9/9 15:03 頃 2号機タービン建屋1階にある原子炉格納容器ガス管理システムの配管(ダクト)から音がしていることを当社社員が確認。現場を調査したところ、当該配管1箇所小さな穴が見つかったことから、応急処置としてテープによる補修を行い、15:28 に気体音が止まったことを確認。

・10/16 10:25 部品手配等の準備が整ったことから、原子炉格納容器ガス管理システムを停止\*し、交換修理作業を実施。11:34、作業が終了したことから原子炉格納容器ガス管理システムを起動。13:24、希ガスモニタによる計測を再開。なお、当該設備の停止期間における監視パラメータの値について異常がないことを確認。

\*原子炉施設保安規定第 12 章「中期的安全確保の考え方」に基づく設備の管理においては、「運転上の制限」や「運転上の制限を満足しない場合に要求される措置」等が定められており、運転上の制限を満足していない場合には、要求される措置に基づき対応することになっている。今回の場合は、保全作業の実施のため計画的に運転上の制限外に移行(10/16 10:25～13:24)して、2号機原子炉格納容器ガス管理システムを停止している。

※2号機原子炉格納容器ガス管理システムのダクト交換作業に伴いデータ欠測。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.5
2号機	循環冷却システム	停止中	26.5
3号機	循環冷却システム	運転中	21.0
4号機	循環冷却システム	運転中	30

\*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【2号機】・10/15 6:07 使用済燃料プール代替冷却系において、弁追設および逆止弁点検、ドレン配管の設置作業を行うため、使用済燃料プールの冷却を停止。10/20 まで冷却停止予定。

なお、冷却停止時のプール水温度は約 23.0℃で、停止中のプール水温度上昇率については約 0.22℃/h と評価しており、停止中のプール水温上昇は約 28.9℃であることから、運転上の制限値 65℃に対して十分余裕があり、プール水温度管理上問題ない。

※平成 24 年 10 月 15 日の「福島第一原子力発電所の状況」において2号機の冷却状況を「運転中」と記載しておりましたが、正しくは「停止中」となりますので、訂正させていただきます。

### <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	10/16 10:14 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	10/15 18:05 ~ 移送実施中
4号機	4号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	10/15 11:55 ~ 移送実施中

- ・10/15 協力企業作業員が3号機タービン建屋1階大物搬入口奥の廊下にて水の漏えいを発見し、10:10 頃、当社社員が確認。10:18、3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])へ溜まり水を移送しているポンプを停止したところ、11:16 に水の漏えいが停止。なお、漏えいした水は大物搬入口奥側のスロープ下部の床面にとどまっており、屋外への流出はない。漏えいの箇所は3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設への溜まり水移送ラインであることを確認。漏えいの範囲は約3m×約6m、深さ約5mmで、漏えい量約90リットルと評価。また、漏えいした水の核種分析を行った結果、セシウム134が約 $1.0 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が約 $1.8 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ であり、漏えいした水はタービン建屋の溜まり水と判断。18:05、漏えいの無い別の移送ラインを用いて集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])への移送を開始。

### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/16 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

### <5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上